

札幌市教育研究推進事業概要

教科等の専門性を磨き続け、
世代、校種を越えて
協働的に学ぶ札幌教育研究事業

小中一貫した教育の推進
 ▶グランドデザインの目指す子どもの姿
 ▶子ども理解・生徒指導の連続性
 ▶家庭や地域との関わり
 ▶9年間を通した子どもの学びのつながり
 ▶教職員の連携・協働

各学校に1~2名いる**校内研究推進委員**等が中心となり、**パートナー部会**を開催し、集会当日に向けた準備等について話し合う。

授業づくり等は、パートナー校や各学校において行う。



小中一貫した教育の推進

各学校の教職員が、3か所の会場に分散し参観&協議&研修

各学校で1つの授業公開

<例2>
 A小学校で2つの授業公開
 各学校の教職員が、A小学校に集まり、参観&協議&研修

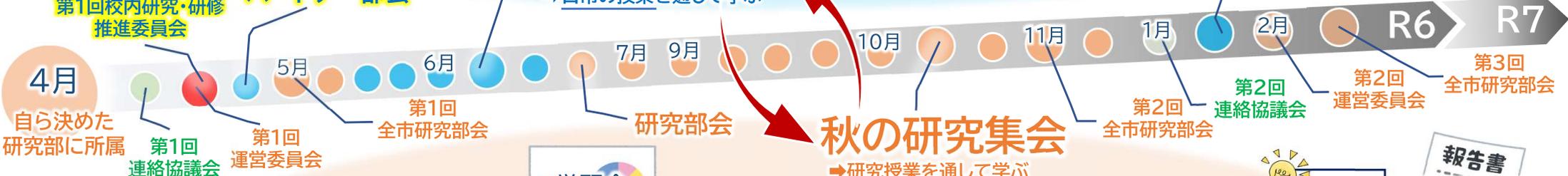


春の研究集会

→日常の授業を通して学ぶ

秋の研究集会

→研究授業を通して学ぶ



研究部長等が中心となり、研究部会を開催し、集会当日に向けた準備等について話し合う。

学習会



各研究部会で授業公開を原則とした集会

運営の負担軽減
 「各種報告様式の更なるスリム化」

学びやすい体制の整備
 「火曜日は全市一斉札幌教育研究の日」

学校担当研究部員は、研究部会に出席する。

教職を目指す大学生が集う
 ▶現場の教員の学びに触れる機会の提供

学びやすい体制の整備
 「研究部内における特別委員会(小部会)の設置を推奨」
 ※所属人数が多い研究部は、運営や集会の分散を図ることも可能

運営の負担軽減
 「教科等に関する専門性を高める研究集会を1回に」

教科等に関する専門性を高める
 ▶研究部会のテーマに沿って